

鳴門教育大

研究センターで予防教育のプログラムを開発

鳴門教育大は昨年、予防教育科学教育研究センターを開設した。センターの仕事は大きく3つに分けられる。その1つは予防教育プログラムの開発。学校適応分野では、いじめや不登校、校内暴力など学校における現代的課題に対処するために、心身健康分野では生活習慣病やうつ病を中心ターゲットとして、プログラムの開発に取り組んでいる。

2つ目は、プログラムを実際に学校で適用する際の実施者となる先生の研修が行われる。この研修後には、各学校でプログラムを実践し、その効果評価を科学的に行いながらプログラムの改善と普及を推進していく。

さらに、同大学と大学院の学生に予防教育プログラムに関する教育を行い、将来のプログラム実施者を育成する試みを同時に進めるという。

同センターでは学校との連携を最も大切にしており、昨年度は県内の小中高校6校で、心身の健康や生活習慣病の予防、円滑なコミュニケーションを身につけるなどをテーマにした授業が行われた。